

2年生 哲学シリーズ④

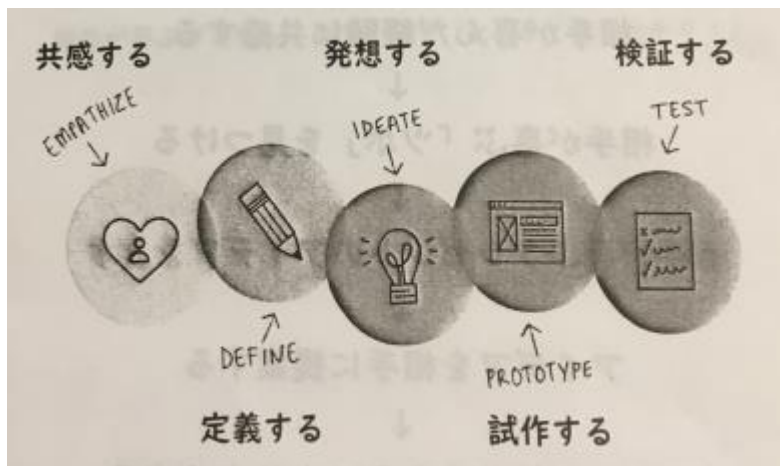
2019. 10. 30

前回に引き続き、今年度から2年生を対象に取り組んでいる「哲学対話」4回目の授業が10月30日に行われました。今回も株式会社イミカの原田博一先生をお迎えし、授業をしていただきました。

第4回目の授業は、「デザイン思考」について学びました。

哲学対話は「学び方を学ぶ」授業であり、「学ぶ」とは、その人の考え方や発言・行動が「変わる」こと、つまり「自分の変え方を教わる」授業です。今回は、デザイナーの方の思考を参考にして、『相手が必ず喜ぶプレゼントを考えよう!』という授業でした。

デザイナー思考とは以下のようなものです。



相手が喜んだ経験に共感する

- 相手が喜ぶ「ツボ」を見つける
- 相手が喜ぶプレゼントのアイデアを出す
- アイデアを相手に提案する
- 相手の反応を踏まえてよりよくする

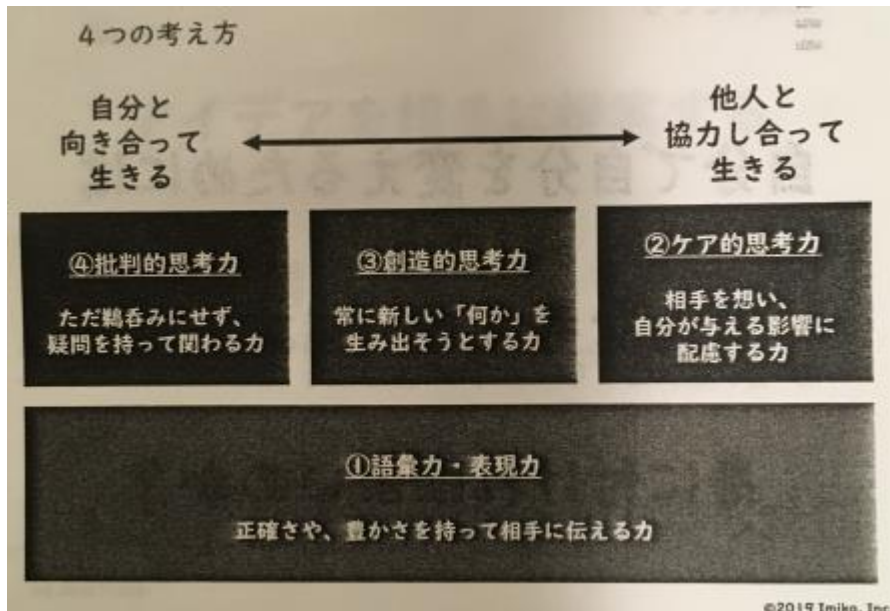


3人1組でグループになり、1人はプレゼントされる人、2人はプレゼントする側となり、プレゼントされる人の好みや今までにももらったプレゼントの話、嬉しいと思った出来事など、とにかくできるだけたくさんの情報を聞き出します。その情報から相手の喜ぶ「ツボ」を見つけ出し、プレゼントのアイデアを伝えていきます。そして、相手の反応や率直な感想を聞き、相手の喜ぶ「ツボ」やプレゼントのアイデアを考え直して、本当に喜んでもらえるプレゼントを提案するというものでした。プレゼントされる側の生徒の中には、自分の趣味嗜好があまりにも当てはまるプレゼントを提案され、原田先生に「どんなプレゼントされたの？」と聞かれ、「恥ずかしくて答えられません…」という生徒もいました。嬉しくないプレゼントを提案された生徒は少なく、多くの生徒が嬉しいと思えるプレゼントを提案されていたようでした。

今回のこの授業では、プレゼントを贈るとき、相手が喜ぶプレゼントではなく自分が喜ぶものを贈ってしまうことがよくあり、これを授業の中で体験することで、「自分の考えを相手に重ねてはいけない」「相手は相手、自分は自分」で切り離して相手のことを考える。ということを学ぶものでした。

4回にわたる哲学対話の授業を受けて、自分で自分を変えるためにはどんな考え方（能力）を身につければよいのか。自分で自分を変えるための「4つの考え方」を最後に提示していただきました。

1. 正確さと豊かさに相手に伝える（言葉、絵、音楽でもよい）
2. 相手との違いを踏まえて関わる
3. 新しい何かを生み出そうとする
4. 鵜呑みにせず疑問をもって関わる



原田先生がおっしゃった、偏見がない人はいないし、偏見はなくならない。その中で、私たちは「違う」で終わらせずに人の違いを「活かす」力を身につけることが大切であり、そのためには、この「4つの考え方」を知っていると、知らないのとではこれからの人生において随分と変わってくるだろうと思いました。

生徒たちにとって、社会に出て世の中の不条理や人間関係で悩み、壁にぶち当たったとき、哲学対話の授業で学んだことや考え方が活かされ、乗り越えていける力になってくれればと思います。

文責 瀬野